

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名：東部中 ICT 推進部

テーマ：AI 時代を見据えた授業の創造～生成系 AI の調査・検討～

取組のポイント・成果

【外部研修】

◆8月19日（土） 12：50～

講義「AIを活用した教育活動の変革」（講師：安藤昇氏）

安藤氏から AI の教育への応用に関する貴重な事例を学んだ。具体的には、生徒の学習進度に合わせたカスタマイズされた教材の提供方法、生徒たちの反応と効果、さらには教育現場での AI 導入時のメリットと課題について深い洞察を得た。この体験を通じて、AI が教育に与える影響と、その導入に際して考慮すべき重要な要素を理解することができた。

◆8月20日（日）12：50～

講義「教育・学習における AI 活用を考える」（講師：谷口恵子氏）

英語学習分野での AI 活用方法について深く学ぶ機会があり、AI が生成する出力の種類と品質について理解を深めた。特に、プロンプト（指示文）の作成が AI の性能に与える影響に焦点を当て、その効果的な設計方法について詳細に探究した。この過程で、プロンプトの精度が AI による言語学習支援の効果にどのように重要な役割を果たすかについて、事例と理論を通じて学んだ。また、教育現場で AI を効率的かつ効果的に活用するための戦略についても考察した。

◆1月20日（土）15：00～

講義「今こそ AI を使って、AI に負けない生徒を育てよ！」（講師：安河内哲也氏）

麹町学園女子中学校高等学校での活動実績を確認し、最新の生成 AI 技術に関する情報を得た。特に、英語学習における AI の活用法や、AI 時代に適応し競争力を持つ生徒の育成方法について深く学んだ。AI を利用した校務の効率化手法に関しても、具体的な事例と効果的な戦略を研究した。これらの知識を通じて、教育現場における AI 技術の有効活用に関する理解を深め、実際の教育プロセスにどのように統合できるかについての洞察を得ることができた。

【校内自主研修会】

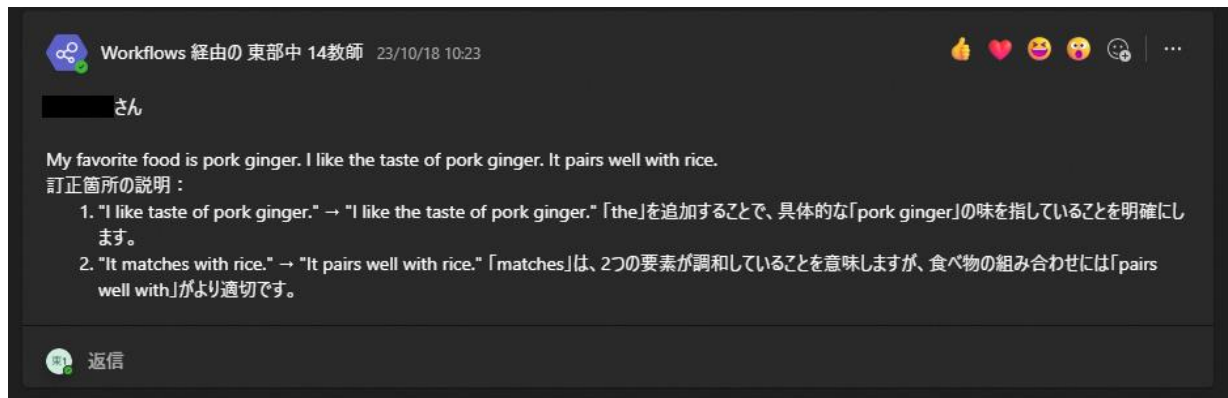
◆8月23日（水）17：00～

職員全員が AI 技術に触れる機会を提供するため、「AI 体験会」を開催した。この会では、ChatGPT や StableDiffusion などのツールに具体的なプロンプト（指示文）を入力し、それらがどのように機能するかを実演した。参加者は AI の便利さと、それを効果的に使いこなすための技術の必要性を実感した。さらに、外部研修に参加した教員が、そこで学習した内容を共有し、他の職員たちの今後の活動への意欲を高めることができた。



◆ 9月19日（火）17:00～

Microsoft の PowerAutomate と OpenAI の ChatGPT API を組み合わせることで、AI による英文添削プログラムを開発した。このシステムでは、生徒が入力した英文を AI が分析し、文法や語彙の正確性に基づいて添削を行う。添削された文は、生徒に返却され、彼らの英語学習を支援する。また、生徒が英文をより効果的に習得するのを助けると同時に、教師の負担を軽減する。



◆ 10月5日（木）17:00～

AI による英文添削システムに対する生徒からのフィードバックを受け、プロンプトの改良を行った。アンケート結果からは、多くの生徒が添削された英文に対して「なぜ修正が必要だったのか」を理解したいという声が多くあることがわかった。新しいプロンプトは、文法的な誤りや表現の改善点について、具体的な理由と例を示すように改良した。

1. 先生の指導と比べて、分かりやすいですか？

詳細 インサイト

とてもわかりやすい	9
わかりやすい	25
変わらない	20
わかりにくい	21
とても分かりにくい	0



◆ 12月19日（火）17:00～

教育現場での AI ツールの活用についての情報共有会を実施し、様々なツールの利用可能性を探った。特に、「DeepL Write」を使用した英文添削指導に焦点を当て、AI が生徒の作文能力の向上にどのように貢献できるかを検討した。また、「音読さん」や「Natural Reader」のような音読支援ツールを用いて、生徒の発音や流暢さを向上させるスピーチ指導の方法についても検討した。

◆ 1月26日（金）17:00～

12月に検討したスピーチ指導について、実際にその効果や生徒の活動の様子を共有した。AI による英文添削の効果を確認すると同時に、生徒が安易に AI に頼ってしまうという問題や、それを防ぐためのルール作りについて検討した。また、これまでの実践内容や記録写真等のデータをまとめ、今後も情報共有がスムーズに行えるようにした。

【授業実践（一部抜粋）】

◆ 6月15日 国語

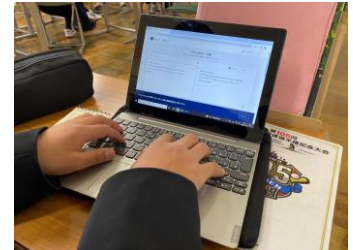
AI が作成した俳句と担当教諭が作成した俳句を提示し、「どちらが先生の作品か考える」という導入を行った。生徒が俳句を選ぶ基準として「こっちの方が先生っぽい」という意見があり、俳句には、作者の感情や経験など、その人らしさが含まれていることを確認した。

◆ 1 2月7日 学活

「学校に教科書を置いて帰ること」の是非について学級で話し合いを行った最後に、ChatGPTに意見を求めた。生徒が考えていなかった「災害リスク」について提案があり、その提案に対しても解決策を考えることで、意見を深めるきっかけとなった。

◆ 1月中旬～下旬 英語

「冬休みの思い出」をスピーチする活動において、生徒が、作成した英文を「DeepL Write」を使用してより正しい英文に変更した。また、「音読さん」や「Natural Reader」といったAIによる音声再生サイトを使用し、モデルとなる発音を聞きながら、生徒が個人で発音練習を行ってからスピーチ発表に臨んだ。



今後の課題

本事業では、最近非常に注目されている生成AIを、学校教育でどのように活用できるのかを探求した。AIツールは非常に便利であるが、教育においてはその使い方を慎重に考える必要がある。教育の効果を加速させる可能性がある一方で、生徒が安易に使用することによる弊害もある。そのため、教員が適切なタイミングで、適切な指導を行う必要があると考えた。

今後の課題としては、教員がもっとAIに触れ、どのように活用できるかを検討する必要があると考える。また、AIなどの新しい技術がもたらすリスクにも目を向け、安全で倫理的な教育環境を確保するための検討を進めていく必要がある。同時に、AIの登場により変化すると考えられる生徒に求められるスキルについても、問い続けなくてはならない。

目指すべきは、AIを教育の一部として取り入れ、生徒がAIの力を補完し、協力する能力を身に付けられるような活用方法を生み出していくことである。今後もAIが教育に与える影響に関する理解を進めながら、教育や授業の在り方について考え続けていく。